

図1 研究デザイン

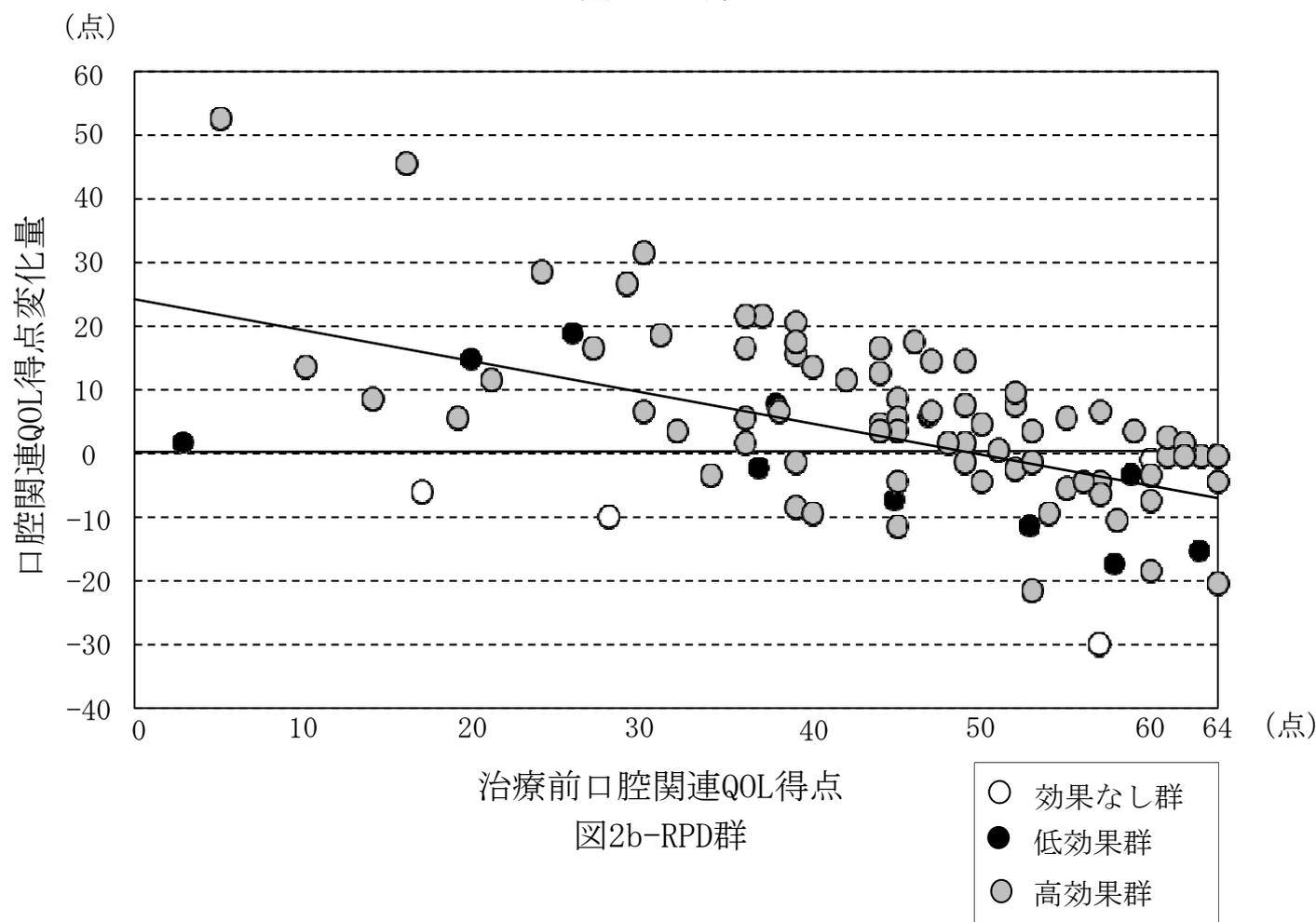
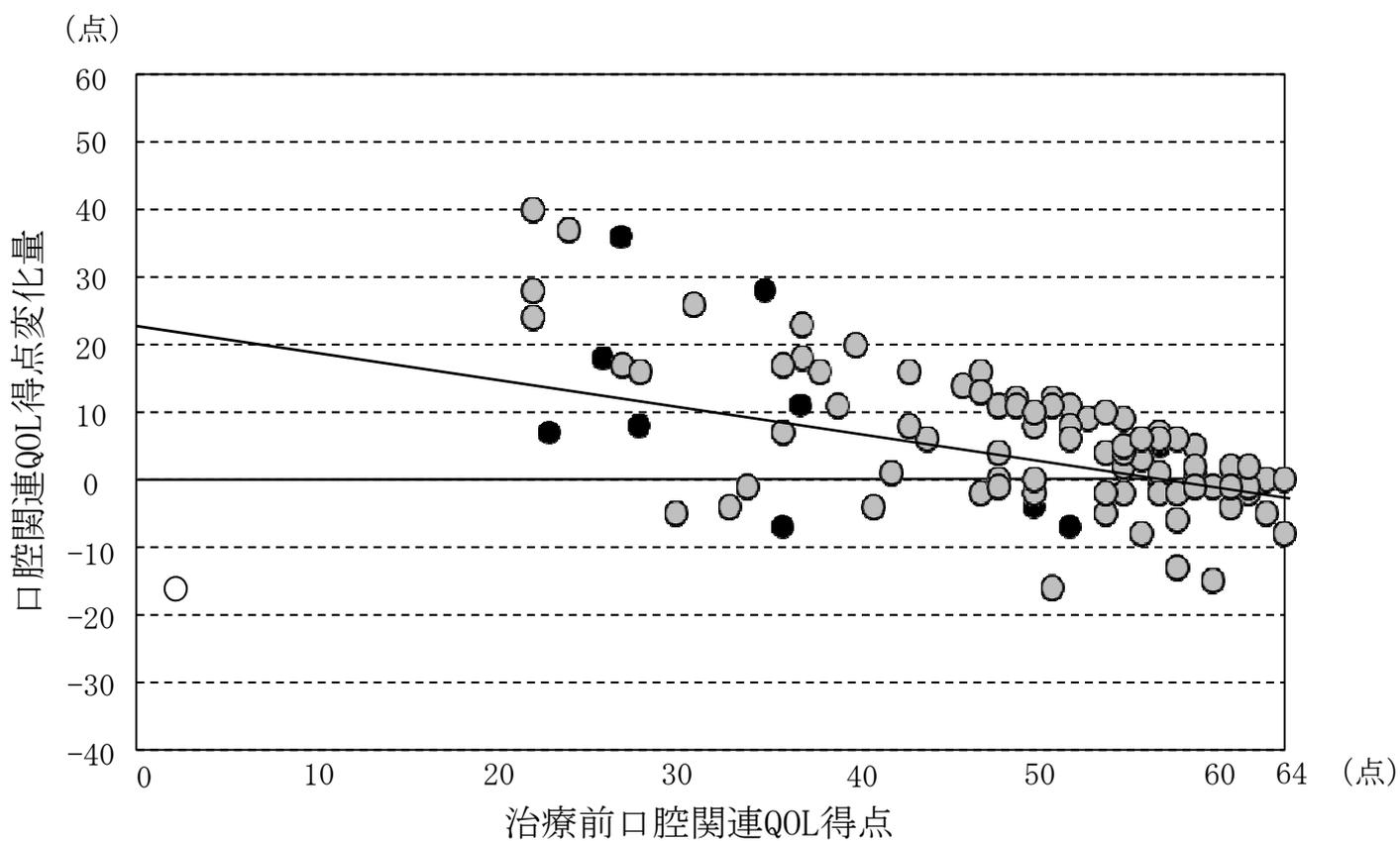


図2 治療前口腔関連QOL得点と治療前後の口腔関連QOL得点変化量の比較

Spearmanの順位相関を用いて，治療前口腔関連QOL得点と治療前後の口腔関連QOL得点変化量の相関を確認した

表1 治療前後の口腔関連QOL質問票

ここ一週間の状態についておうかがいします。	頻繁にあった			まったくなかった	
	<input type="checkbox"/>				
<b>口腔機能に関する質問項目</b>					
<b>(咀嚼・疼痛)</b>			<b>(発音)</b>		
1. 食べ物によっては避けるものがあった				1. 発音しにくいことがあった	
2. 口の中に痛いところがあった				2. 人が自分の発音を理解しにくいことがあった	
3. 歯が痛かった				<b>(審美)</b>	
4. 歯ぐきが痛かった				1. 歯の見た目が気に入らなかった	
5. 口の中に違和感を感じた				2. 口の中を他人に見せたくないと感じた	
6. 食べ物の歯ごたえが悪いと感じた				3. 笑うのを避けることがあった	
7. 食べ物を噛むことに苦痛を感じた				<b>(嚥下)</b>	
8. 食べ物を噛み砕くことが難しかった				1. 食べ物を飲み込むことが難しく感じた	
9. 舌が痛かった				<b>(口腔清掃)</b>	
				1. 歯磨きが面倒と覚えることがあった	
<b>精神心理に関する質問項目</b>					
<b>(活動性)</b>			<b>(精神心理)</b>		
1. リラックスできないことがあった				1. これからの人生に不安を感じた	
2. 気がめいることがあった				2. 他人の目が気になった	
3. 集中力がないことがあった				3. 他人がうらやましいと感じた	
4. 仕事をしたくないことがあった					
5. 日ごろの生活にストレスを感じた					
6. 何をしてもすぐに疲れた					
7. 自分の時間がもてていないと感じた					

表2 回顧口腔関連QOL質問票

今から思えば治療を受ける前は	頻繁にあった			まったくなかった	
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<b>口腔機能に関する質問項目</b>					
<b>(咀嚼・疼痛)</b>			<b>(発音)</b>		
1. 食べ物によっては避けるものがあった				1. 発音しにくいことがあった	
2. 口の中に痛いところがあった					
3. 口の中に違和感を感じるものがあった				<b>(審美)</b>	
				1. 口の中を他人に見せたくないと覚えることがあった	
<b>精神心理に関する質問項目</b>					
<b>(活動性)</b>			<b>(精神心理)</b>		
1. ストレスを感じるものがあった				1. 人生を不安に思うことがあった	

表3 解析対象の基礎特性

観察因子	解析対象	BR群	RPD群
	203	107	96
年齢（歳）	63.1±12.4	59.2±13.0	67.5±9.9
性別（男/女，名）	79/124	37/70	42/54
治療歯数（本）	3.8±2.0	4.0±2.1	3.6±1.8
現在歯数（本）	22.9±3.4	23.8±3.2	21.9±3.4
アイヒナー分類（A群/B群/C群/不明，名）	96/105/1/1	72/34/0/1	24/71/1/0
治療期間（月）	6.1±4.4	7.4±4.1	4.8±4.3

平均値±標準偏差

表4 治療前後の口腔関連QOL得点および精神心理関連QOL得点の比較

	BR群						RPD群					
	治療前		治療後		p値	d	治療前		治療後		p値	d
	中央値	四分位	中央値	四分位			中央値	四分位	中央値	四分位		
口腔関連QOL得点	52	42.5-58.5	58	48.5-62	<0.01	0.44	47	37-57	52.5	42-60	0.02	0.31
咀嚼・疼痛	27	19.5-30	30	25-32	<0.01		22	16.8-28.3	26	19.8-30	<0.01	
発音	8	6-8	8	6-8	0.04		7	6-8	7	6-8	0.33	
審美性	12	9-14	15	12-16	<0.01		12	7-14	13	10-16	<0.01	
嚥下	4	3-4	4	3-4	0.14		4	3-4	4	3-4	<0.01	
口腔清掃	3	3-4	3	3-4	0.11		3	2-4	3	2-4	0.65	
精神心理関連QOL得点	27	19-32	30	24-35	<0.01	0.33	30	24-35.3	30	23-36	0.33	0.05
精神活動性	19	13-22.5	21	17-24	<0.01		21	15-24	21	15-25	0.48	
精神心理	9	7-11	10	8-11	<0.01		9	8-11	10	8-11	0.33	

表5 治療効果の主観評価分類別の治療前後の口腔関連QOL得点の比較 (BR群)

	BR群				p値	d
	治療前		治療後			
	中央値	四分位	中央値	四分位		
効果なし群 1名	48	—	32	—	—	—
低効果群 12名	36.5	27.8—53.3	47	42—62.3	0.13	0.65
高効果群 94名	54	46.3—59	59	50.3—62	<b>&lt;0.01</b>	0.45

表6 治療効果の主観評価分類別の治療前後の口腔関連QOL得点の比較 (RPD群)

	RPD群				p値	d
	治療前		治療後			
	中央値	四分位	中央値	四分位		
効果なし群 4名	42.5	25.3—57.8	22.5	16.3—35	0.39	-0.64
低効果群 12名	46	34.3—58.8	43.5	37.3—49.3	0.77	-0.02
高効果群 80名	47	38.8—55.3	53	45.8—60.3	<b>&lt;0.01</b>	0.45

表7 治療効果の主観評価分類別の治療前後の口腔関連QOL得点変化量

	BR群		RPD群	
全対象	107名	+5.2±10.4	全対象	96名 +4.5±12.9
効果なし群	1名	-16	効果なし群	4名 -11.8±11.0
低効果群	12名	+8.3±12.4	低効果群	12名 -0.4±10.7
高効果群	94名	+5.0±9.8	高効果群	80名 +6.0±12.5

平均値±標準偏差

表8 治療法別の治療前口腔関連QOL得点と回顧口腔関連QOL得点

BR群 107名			RPD群 96名		
治療前		回顧	治療前		回顧
中央値	四分位	中央値	四分位	中央値	四分位
21	17-24	17	12.5-22	20	15-23.5
			<0.01	17.5	11-22.3
					0.07

Wilcoxonの順位和検定